2017 彦根市地域文庫連絡会 研修会

本と子どもを結ぶために

子どもに本を手渡すということは、

その心の成長に深く関わること。

それは、未来へ向かって生きる

子どもの幸せにつながること。

小学校教員、おはなしボランティア、図書館職員、大学教員として、常に子どもたちと本を結ぶことを大切にしてこられた尾野三千代先生をお迎えして、手渡す大人が大切にしたいことをお聞きします。尾野先生が考案された「なぞり聞かせ」のワークショップもあります。ぜひご参加ください。

・本やお話の世界で遊ぶ楽しさと、それが人生に与える底力についてお話されます。
・読み聞かせボランティアの現状と課題、子どもの育ちを応援する「読み聞かせ」とは等について、わかりやすくお話してくださいます。
・ワークショップでは、大勢の子どもや、あまり本に親しんでいない子どもに物語を読み聞かせする時に、読み手も聞き手も安心して、物語の世界を楽しむことができる「なぞり聞かせ」という、先生が考案された手法を教えていただきます。

◆日時：2017年7月9日（日）

・午前（講　演）　10：30～12：30　（定員50名）
・午後（ワークショップ）13：30～15：30　（定員25名）

※ワークショップのみの参加は不可。詳しくは裏面をご覧ください。

◆会場：彦根市立図書館　（〒522-0001彦根市尾末町８番１号）

講師：**尾野三千代** 先生（和光大学非常勤講師）

主　催／彦根市地域文庫連絡会
共　催・申込先／彦根市立図書館　TEL：0749-22-0649

受付 No.＿＿＿＿＿＿

2017 彦根市地域文庫連絡会研修会　**「本と子どもを結ぶために」参加申込**

名前：	住所：	電話：
参加希望に○：　講　演　・　ワークショップ	希望のお話番号（ワークショップ参加希望の方のみ）〔　　〕	
備考：		

●講師プロフィール●

明石市の小学校教諭、おはなしボランティア、東京子ども図書館非常勤職員を経て、東京都府中市立図書館児童担当として勤務。現在は、和光大学非常勤講師として司書や教員を目指す学生に『児童サービス』について講義をしたり、図書館等でおはなしボランティア関係の講師を務める傍ら、ボランティアとして、神戸市の小学校や図書館、幼稚園、保育所、児童館で本を読みきかせたり、ストーリーテリングを実践しておられます。

関係著作物は、編著『子どもに物語の読み聞かせを―読み聞かせに向く 260 話のリスト』(児童図書館研究会 2014.11 刊)、共著『「喜びの地下水」を求めて―石井桃子が児童図書館にのこしたもの』(児童図書館研究会 2010.3 刊)、他。

ワークショップ

《絵本から読み物へ 「なぞり聞かせ」で子どもたちに物語の楽しさを》 参加について

午後からのワークショップは、以下のお話を教材におこないます。各お話 5 人のグループでおこないますので、申込先着順に①～⑤の中から一つお話を決めていただきます。教材は、当日までに必ず各自で準備ください。教材の購入を希望される方は参加申込用紙の備考欄に「教材購入希望」とご記入ください。

＊おはなしのろうそく　東京子ども図書館編　各 540 円（旧版のものは 432 円）

①エパミナンダス(ブライアント／作)おはなしのろうそく 1

②三枚のお札（日本の昔話）おはなしのろうそく 5

③びんぼうこびと（ウクライナの昔話）おはなしのろうそく 26

④ねずみのすもう（日本の昔話）おはなしのろうそく 18

⑤お月さまの話（ニクレビチョバ／作）　おはなしのろうそく 25

※教材準備等についての問い合わせ：彦根市地域文庫連絡会　富永(090)6737-9868 へ。

尾野三千代先生の著書

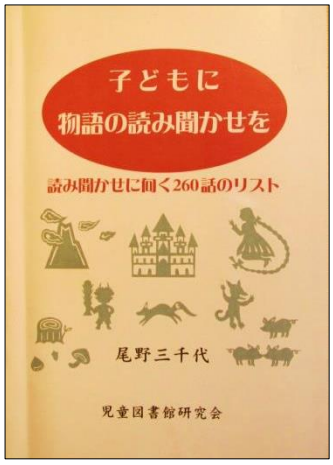
『子どもに物語の読み聞かせを』

（児童図書館研究会）

「読み聞かせに向く 260 話のリスト」

なぜ、子どもに物語の読み聞かせが必要なのかを明快に解き、子どもの生命力を引き出し、豊かな想像力を育む物語 260 話を紹介している。

各物語には改題と対象年齢、時間などが記載され、巻末の索引も充実。680 円（税込）



＊購入希望される方は、申込備考欄に「子どもに物語の読み聞かせを」購入希望と記入ください。
研修会当日代金と引き換えにお渡しします。